七堂伽藍外　近代化と永平寺の変化

曹洞宗では、18 世紀以降、「道元講」などの講組織が各地で作られるようになった。また、文政 12（1829）年の二祖五百五十回忌に際して、吉祥講の勧諭がなされ、江戸の旅行ブームと相まって一般参拝者の増加へと繋がったとみられる。

また、近代以降の鉄道網の発展により、全国の曹洞宗寺院とその檀信徒、一般観光客の永平寺への参拝・参籠（宿泊）が日常化し、伽藍の拡張や宿坊の整備などが行われた。

門前の下馬先

明治 21 年に整備された越坂峠

高祖大師五五〇回遠忌に際し、設けられた道標
（福井市追分　勝山街道―永平寺道）

吉峰寺への道を示す道標

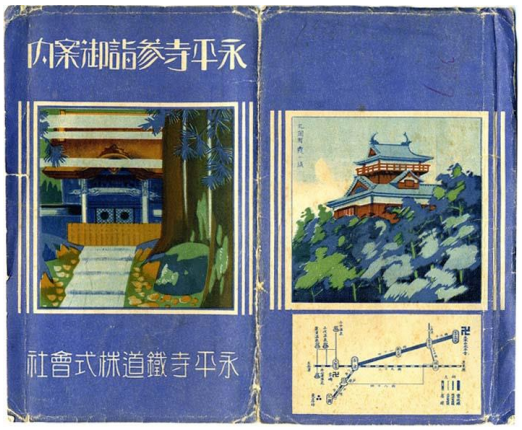
１．近代鉄道網の発展と衰退

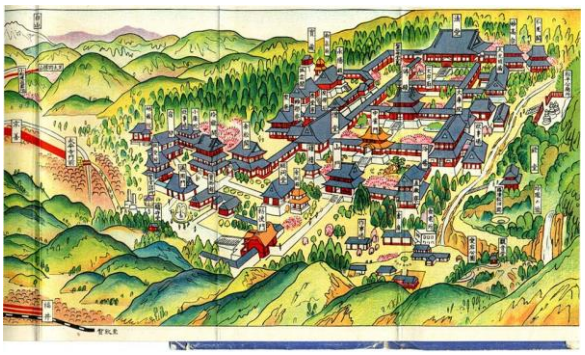
近代交通網の発展は、官営鉄道であった北陸本線が明治 29 年（1896）に福井まで開業し、大正 2 年（1913）には全線開通となり、福井市と本州の多くの地域が鉄道で結ばれるようになった。

福井－永平寺間の交通は、大正 3 年（1914）に京都電燈越前電気鉄道により福井－永平寺口間が開業した。大正 14 年（1925）には永平寺鉄道により永平寺（後に永平寺口）－永平寺門前間、昭和 4 年（1929）に金津―永平寺間が全通し、永平寺は鉄道により本州各地と繋がることとなった。

高度経済成長期に伴うモータリゼーションの中で、永平寺線の需要は薄れ、昭和 44 年

（1969）金津－東古市間が廃線、平成 14 年（2002）永平寺口－永平寺間も廃線となった。





永平寺鉄道作成の参詣案内

北陸線福井停留所から 4 里の道標

京福電鉄　旧永平寺駅舎

京福電鉄永平寺線　市野々－永平寺（1998 年）

京福電鉄永平寺線　永平寺駅（2000 年）

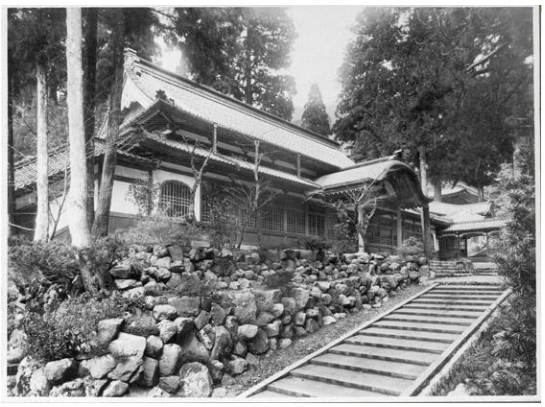
２．宿坊群の成立

近代鉄道網の発展により、永平寺は全国 1 万 4 千の宗門寺院と檀信徒の参拝・参籠の受け入れが日常化することとなった。それに伴い、高祖大師六百五十回大遠忌（1902 年）に際する伽藍整備では、宿泊施設の修改築、増築が行われた。

瑞雲閣

名古屋宿坊

二祖六百五十回大遠忌（1930 年）に際する伽藍整備では、七堂伽藍外のほとんどの建物について増改築、移築などがなされた。この整備により七堂伽藍群に匹敵する規模の宿坊群が形成された。この大遠忌を含む 3 週間の宿泊者数は 5 万人に及んだとされる。



傘松閣

鳳来閣・小庫院調理場

総受付（旧瑞雲閣の移築改造）

３．門前町の景観変化

二祖六百五十回大遠忌（1930 年）に前後して、門前町の景観も大きく変化した。永平寺前駅から龍門までの道が県道に格上げされ、新参道が建設され、現在の門前通りの形成が始まった。

昭和 40 年代になると名神、東名高速道路が全線開通となり、大型バスによる団体参拝が盛んとなり、昭和 46 年完成の吉祥閣は往時には 1 日 500～600 名の参籠者があったとされる。また、昭和 40 年代から 60 年代にかけて一般観光客も急増し、昭和末期には年間 140 万人が訪れたとされる。

半杓橋→本山

曹源橋→福井

昭和時代の参道

吉祥閣